

OKFA 16→25 プラン ～中間報告～

2016 年 4 月、オホーツク(当時網走)地区サッカー協会は、10 年後の未来にもサッカーやフットサルを日常的に楽しみ、競技性を磨き、文化として根付くためのプランを掲げた。5 年目を迎え、その成果と課題が見えてきた。各カテゴリーによるその検証と修正を集約し、協会全体として今後の指標をここに提示する。

オホーツク地区サッカー協会



Priority subject

重点課題

リーグ文化の醸成	U-10 からシニアまで、すべての選手がリーグ文化の中で成長・enjoy できる環境を作る。
女子選手数 倍増計画	女子選手数の増加を目指し、サッカーを女子のメジャースポーツにする。
施設の充実	いつでも誰もがサッカーやフットサルを楽しめるよう、施設充実を目指す。
みんなつながっている	サッカーファミリーをつなげるために、情報をスムーズに共有する。

リスペクト OKFA

2014 年から、サッカーを通して見られた心あたたまる光景を紹介し合う活動を続けてきた。その精神はすでに浸透し、当たり前になっている。これからも、人と人がつながり、安心・安全の中でプレーできるようにしていきたい。そのためには、選手・指導者・審判員・保護者・観客・運営者・協賛団体・施設管理者などの人間同士のつながりのみならず、環境・用具など全てのものに敬意を払う心を忘れずにいたい。

夢の実現

オホーツク出身の選手・指導者・審判員、これまでに様々な実績はあるが、それはすでに過去のものである。巣立っていった仲間の活躍は喜ばしいことであるが、目の前にいる仲間達が手を携えて環境を整え、夢を実現できる場を常に提供できるようにしたい。広いオホーツク、どこにいても夢に向かって歩むことができる、そのような組織を形成し、実践力を高めていきたい。

2015 年度と 2019 年度のデータ

サッカーチーム数: 100→97

サッカー選手数 2330→1957

フットサルチーム数: 13→8 フットサル選手数: 204→60





リーグ文化の醸成

2・3 種は道東以上のリーグに複数チーム参入達成。4 種は道東・全道大会で一定の成果。1 種は継続課題。

現在、オホーツク地区で行われている公式のリーグは、サッカーで U-10・U-12・U-13・U-15・U-18・社会人・シニアである。フットサルは社会人で行われているエンジョイリーグのみである。

2019 年度、道東リーグに所属したのは、U-13/15 に網走と北見から、U-18 に網走と遠軽から、社会人に美幌から参入しているチームがそれぞれ 1 チームずつある。2016 年当初に掲げた「複数チーム参入」は達成できてきた。リーグ

で力をつけたチームが各種地区予選や上位大会で活躍するケースが見られるようになってきたことは大変喜ばしい。2020 年度は FC 網走 U-15 が道カブス 2 部に参入することが決まり今後のさらなる活躍に期待したい。

2015 年に U-12 リーグの結果が、全日本少年大会へのエントリーに反映されることになり、上位を目指すチームにとっての真剣勝負の場が長期にわたって展開されるようになった。2018-19 年度は道

東予選を突破して全道大会へコマを進めることができた。

地区カブス U-15 リーグは、中 3 の引退問題が徐々に解消され、拮抗した試合が展開されつつある。春から秋にかけてプレーの質が向上しているチームが多く見られ、リーグ文化の定着による一定の効果を得られていると推察できる。

U-18 は、地区 FA リーグと道東ブロックリーグがつながっていない

複数チームが道東以上リーグで上位に

い。3 種や 1 種のように、参入戦を経ずにチームの意思でブロックリーグに参入している。遠軽と網走南ヶ丘は、周囲の協力とチームの努力で、よりレベルの高いリーグを経験したことで高体連・高校選手権の結果や選手個々の成長につながっている。

あらためて述べるが、リーグ文化というのは、年間を通して真剣

勝負の場があり、なおかつ長年にわたってチームの力を持続させることにある。消化試合をできるだけなくし、地区の上位リーグで強化されたチームが道東へ参入できる環境を作りたい。中体連チームの場合、戦力が年によって大きく変わってしまうという状況は、かつて大人数を抱えていた中学校でも見られるようになってきた。一



方、北見でクラブが着実に力をつけつつあるので、各エリアでもその模索を続け、学校単位での部活動から脱却を図ることも必要である。各クラブ・少年団・地域が手を結び、体力のあるクラブを作っていく必要がある。